

2 「令和元年度埼玉県学力・学習状況調査 データ活用事業」の分析結果について (参考)

1 はじめに

県では、本調査の実施と併せて、約30万人分の調査結果を活用し、児童生徒の学力向上に向けた指導改善を進めるため、「データ活用事業」において分析を行っています。

令和元年度は、過去5年間に得られた調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所へ委託し、指導と学力の関係について詳細な分析を行いました。

2 データ分析結果概要 (平成27年度～令和元年度)

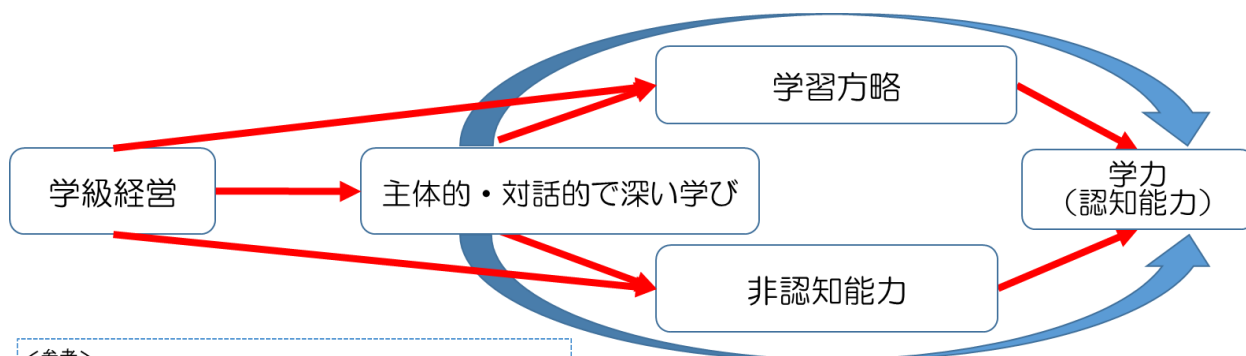
過去5年間 (H27～R1) に得られた調査データを基に、分析を行ったところ、以下の結果が得られました。

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる

<分析結果でわかってきたこと(ダイジェスト)>

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて良い学級経営（落ち着いた学級づくり）が、非認知能力や学習方略を向上させ、子供の学力向上につながっている
- ② 保護者や地域の方々が積極的に諸活動と関係している学校は、良い学級経営（落ち着いた学級づくり）を実現している傾向
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「授業に対する教員の意識変容」と「専門的な指導を受けながらの継続的授業改善」が重要
- 新④ 学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向
- ⑤ 毎年毎年の子供たちの非認知能力を高めることが、学力の維持向上に重要
- 新⑥ 学級内における周囲との学力差は学力や非認知能力の変容に影響する

新④、⑥：令和元年度データ活用事業の分析により新たに分かったこと



<参考>

- 非認知能力
例えば「自分の感情をコントロールして行動できる」等の力
- 学習方略
例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度

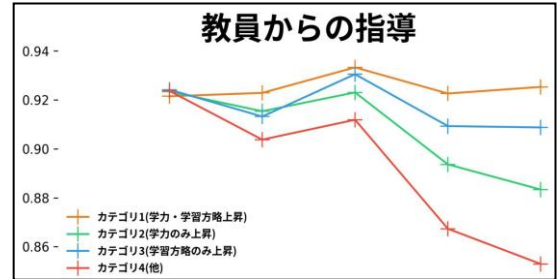
3 令和元年度のデータ分析結果

これまでの分析結果を踏まえて、令和元年度に行った分析の結果、主に以下の2点について新たに明らかになってきました。

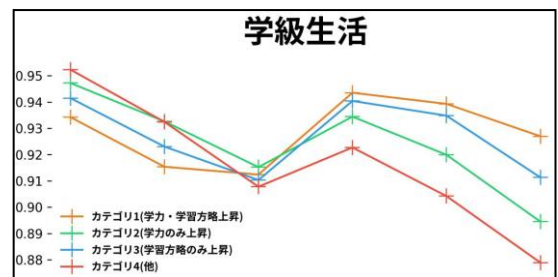
(1) 学力や学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向があること。

平成28年度～令和元年度の4年間で、①学力と学習方略の両方伸びた、②学力のみ伸びた、③学習方略のみ伸びた、④両方ともに伸びなかった子供の集団の特徴を分析

・「教員からの承認」は学年が進むにつれ減少傾向にあるが、学習方略が上昇した集団（①又は③）は、その程度が弱まる傾向がある。



・「学級生活」は学年が進むにつれ減少傾向にあるが、学習方略が上昇した集団（①又は③）は、その程度がある程度抑えられている傾向がある。



(2) 「自分は学習が比較的得意だ」という自己認知は、その後の学力や自己効力感にプラスの影響を与えること。

令和元年度の中1から中3までの生徒を対象に、「小学生時点での周囲との学力差が、中学生になった時点の学力や非認知能力に与える影響」を分析

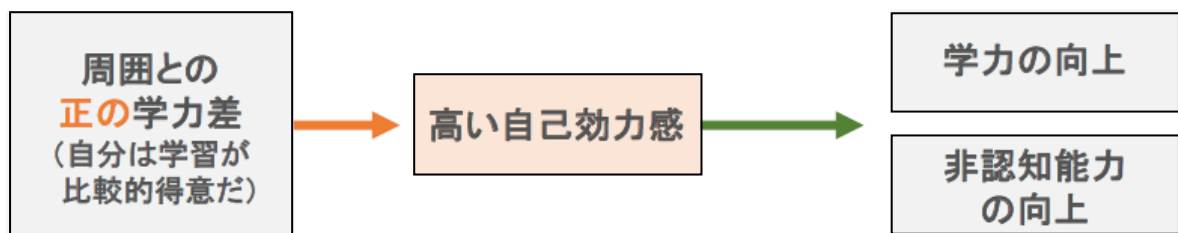
<学級における周囲との学力差と学力・非認知能力への影響>

教科	算数・数学			国語			英語		非認知能力 (自己効力感)	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中1	中2
推定値	0.623***	0.547***	0.214***	0.623***	0.602***	0.305***	0.688***	0.425***	0.304***	0.419***

*が多いほど統計的に信頼性が高いことを表す。

・小学生時点に周囲との学力差が大きいこと（「学級の他の子供よりも自分は勉強ができる」）は、3年後の学力や自己効力感にプラスの影響がある。

「自分は学習が比較的得意だ」という自己認知の効果とそのメカニズム



・子供が、「自分は周囲よりも学習が苦手」と思うことで自己効力感が低くなってしまわないようにするための手立てを図ることや、自己効力感が失われてしまった子供を支援することは子供の将来の教育成果への影響でも重要でありうる。

【別添1】分析に使用されている項目について

項 目	説 明
主体的・対話的で深い学びの実施	学級における主体的・対話的で深い学びの実施状況を数値化した値 ※ 児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値
【児童生徒質問項目（例）】 ※学年により、質問項目が異なります。 あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。 <ul style="list-style-type: none">・ 課題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決すること・ 授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言われること・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと	

項目	説明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑥に分類される。
<p>① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など</p> <p>② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など</p> <p>③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など</p> <p>④ 人的リソース方略 … 友人を利用して学習を進める活動 (例) 友達に勉強のやり方や分からないところを聞く など</p> <p>※ <u>分析結果では「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソースを利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。</u></p> <p>⑤ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など</p> <p>⑥ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習する など</p>	
<p>【児童生徒質問紙の項目】</p> <p>柔軟的方略 勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える</p> <p>プランニング方略 勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう</p> <p>作業方略 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす 勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる</p> <p>人的リソース方略 勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく 勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく 勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する 勉強するときは、最後に友達と答えあわせをするようにする</p> <p>認知的方略 勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく</p> <p>努力調整方略 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する 学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なところだけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する</p>	

項目	説明
<p>非認知能力</p>	<p>テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の4種類について質問を行っている。</p>
<p>① 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和2年度の小学5年生、中学2年生に質問 自制心</p>	<p>授業で必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p>
<p>② 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和2年度の小学6年生、中学3年生に質問 自己効力感</p>	<p>授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和2年度の小学4年生に質問 勤勉性</p>	<p>うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りはこちらかっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和2年度の中学1年生に質問 やりぬく力</p>	<p>大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません 始めたことは何でもさいごまで終わらせます 何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>